

# 水道局だより


## 私たちの暮らしの中の水道 vol.2


平成30年11月1日発行  
平成30年 第4号  
水道局

☎237-5811 FAX237-5819

身近にある水道について知っていただくために、水道事業の現状・課題・経営状況をシリーズでお伝えしています。第1回目(広報津8月16日号折り込み紙)では、水の大切さや水道水が私たちの家に届くまでの流れ、いつでも安心して水が飲める仕組みについてお伝えしました。今回は、水道施設の地震対策について耐震化の現状や課題、決算の状況などを見ていきます。


### 耐震化は、このままで大丈夫？


 全国各地で発生している地震被害や風水害を受けたとき、最も困ることの一つとして水道が使えないことがあると思うけど、津市の水道って地震に強くできているのかな？


 平成29年度末時点、津市の水道施設の耐震化率は、下のとおりだよ。


- 基幹管路 20.1%(約39%)
- 浄水場 28.4%(約28%)
- 配水池 28%(約53%)

※かつこ内は、平成28年度末の全国平均

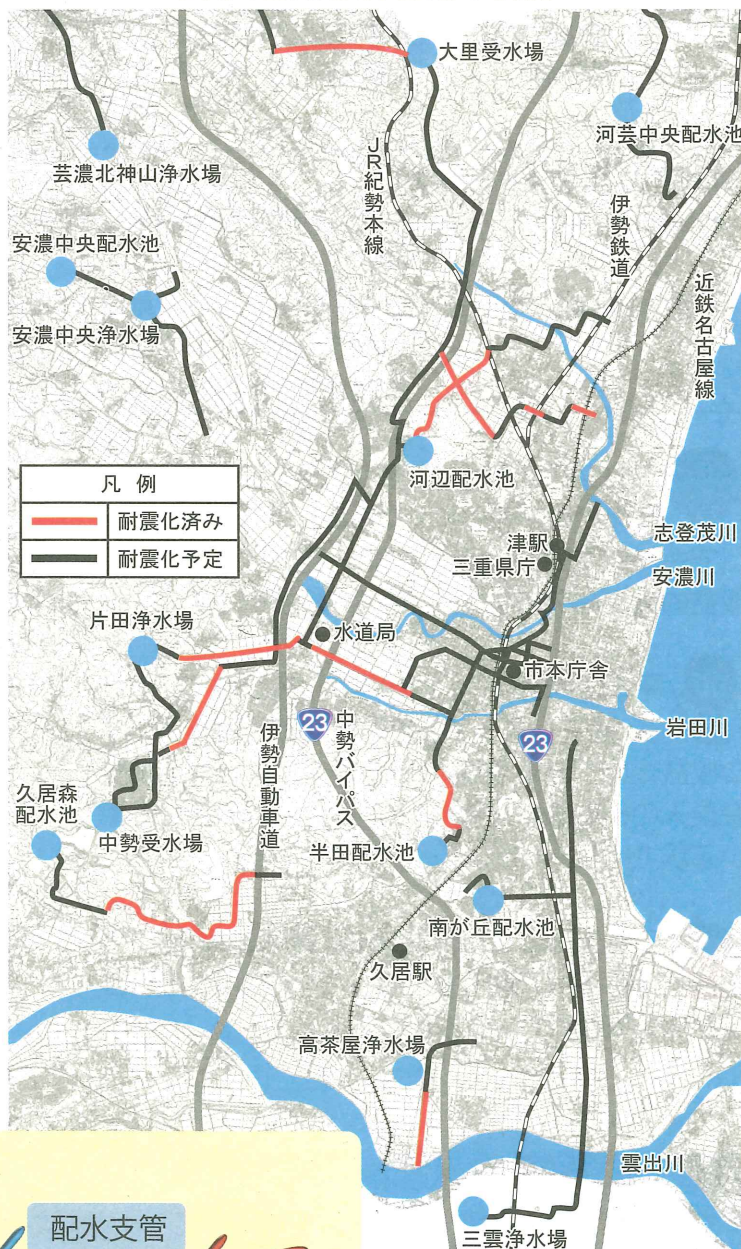
 まだこれだけしか耐震化されてないんだ！このままで大丈夫なのかなあ？

 県内の市の中でもこれまで比較的安い水道料金でやりくりして、その中で耐震化を進めてきたから、耐震化率が低いんだ。

 でも、このままじゃ大きな地震が起これば心配だね。

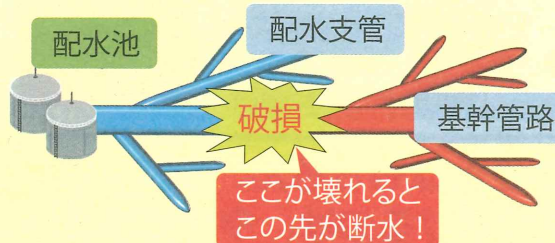
 そうだね。だから、今まで以上に耐震化を進める計画を立てたんだよ。でも、耐震化にはたくさんのお金や時間がかかるから、その分経営がますます厳しくなるんだ。

### 市内の主な基幹管路の状況



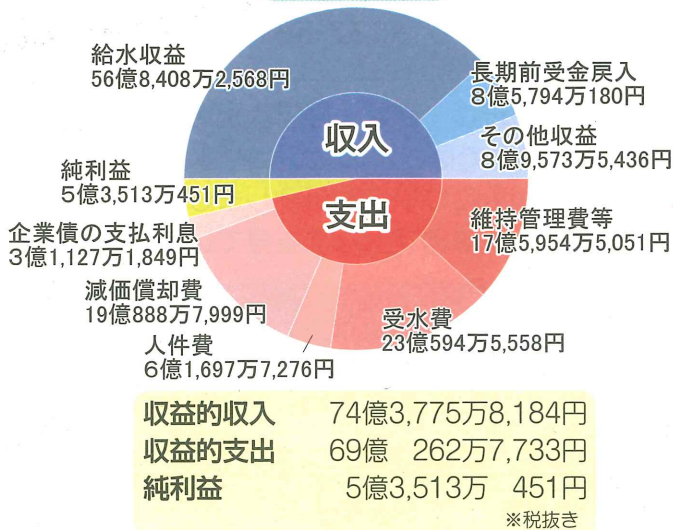
### 基幹管路は重要！

基幹管路は人間の体に例えると太い血管の役割を果たし、基幹管路が壊れると、その先の広い範囲が断水してしまう重要な管路です。

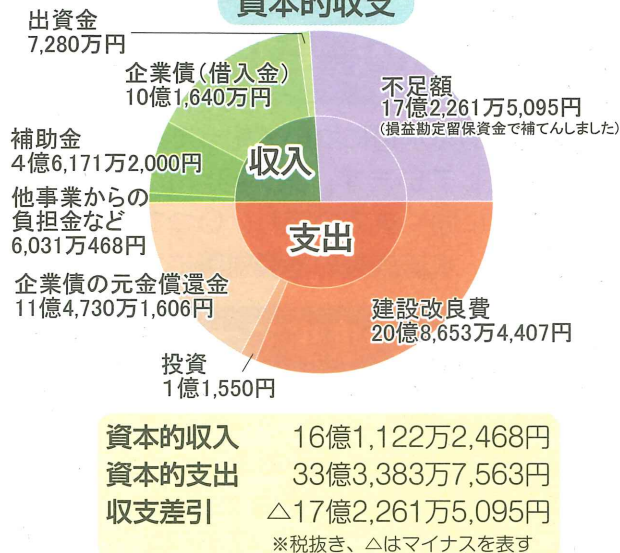


# 平成29年度決算をしてみよう！

## 収益的収支



## 資本的収支



### 収益的収支と資本的収支

- 収益的収支(グラフ左)…その年度の水道水の提供に必要な費用と、収入(主に水道料金)
- 資本的収支(グラフ右)…水道を将来にわたって維持するために必要な施設の整備や拡充などに係る費用と、それを行うための財源となる収入(補助金や借入金)

### 給水人口と配水量

給水人口	27万8,359人
給水戸数	13万4,072戸
年間総配水量	4,018万358m <sup>3</sup>
1日平均配水量	11万83m <sup>3</sup>
1日最大配水量	12万839m <sup>3</sup>

(平成30年3月31日現在)

上のグラフから、津市の水道事業ではたくさんのお金が使われていることが分かるね！  
でも、さっき経営が厳しくなると言っていたけど、収益的収支(グラフ左)では利益が出ているよ。

平成29年度は、5億円の利益が出ているけど、過去にもらった補助金などを毎年少しずつ収益化している、実際の現金収入でない長期前受金戻入の8.5億円が含まれているから、利益が出ている訳ではないんだよ。

そうなんだね。それじゃあ、資本的収支(グラフ右)は17億円も不足しているけど、これは何から支払われているのかなあ？

将来、施設を新しくするために備えた貯金の損益勘定留保資金が60億円あって、そこから支払ったんだよ。でも、今年は収益的収支の減価償却費や長期前受金戻入などの会計上の処理を行って、10億円は戻すことができたんだよ。下の計算式を見てみて！

平成29年度は7億円貯金が減ったんだね。

そうだね。丈夫な水道を保ち続けるために、水道管や浄水場などの耐震化は、今まで以上に力を入れていくことが重要だけど、その分貯金は減っていくことになるんだ。

今回は、これから先も安定して水道水を届け続けるためにどんなことをしておかないといけないか考えてみよう！

### 水道局の貯金の動き

これまでの貯金 (損益勘定留保資金)	60億円	−	平成29年度の不足	17億円	+	平成29年度の貯金	10億円	=	貯金残高	53億円
-----------------------	------	---	-----------	------	---	-----------	------	---	------	------

平成29年度に減った貯金  
**7億円**

水道事業の運営費用は、 皆さんからの水道料金で賄っています！

今の水道を維持することはもちろん、50年先、100年先の世代まで安定して水道水を届け続けるのは、今を生きる私たちの責任です。